

総合計画審議会及び未来創造部会からのご意見・ご提言

分類	提言の概要	備考
農林水産業	(地産地消) <ul style="list-style-type: none"> ・県の伝統野菜を利用した地産地消の推進 ・地産地消の取組を県全体に広げるべき ・地元の旬の味の大切さを伝えていくべき ・地元食材を使った給食の推進 	総計審(8.3) 総計審(8.3) 総計審(8.3) 総計審(8.3)
商工業	(地場産業育成) <ul style="list-style-type: none"> ・徳島県ですっと生活していくためには、環境や住みやすさも重要であるが、経済的なインセンティブもなければ、長続きしない。単に地域のを地域で消費するだけではなく、「地産地消」の「消」を「商」に置き換え、地域の産品や伝統を他県に向けて発信することで、地域や自分に何らかの恩恵が得られる仕組みが必要 	未来創造部会(7.1)
働き方	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急雇用対策も良いが、雇用される人のスキルアップを図り、継続した就労に繋がるような施策が必要 ・「働けない」「年金がもらえない」など、「貧困」に関する相談が増えており、対策が必要 	未来創造部会(7.1) 総計審(8.3)
安全・安心	(防災) <ul style="list-style-type: none"> ・住宅施策の見直し(量より質の時代)によるバリアフリー化率、省エネ化率、耐震化率の向上 (交通安全) <ul style="list-style-type: none"> ・関係機関の連携、啓発による自転車マナーの向上 (医療) <ul style="list-style-type: none"> ・学生が2年間、へき地で実習するシステムをつくることにより、へき地での医師不足を解消 海部病院に療養の病床や緩和ケアセンターを設置 (健康) <ul style="list-style-type: none"> ・ウォーキングによる糖尿病対策やお遍路さんの安全・安心のため、歩道の整備を促進 	総計審(8.3) 総計審(8.3) 総計審(8.3) 総計審(8.3)
教育	(人づくり) <ul style="list-style-type: none"> ・人の温かさなどを養うには、教育が重要であり、これは人権教育に集約される。今後、根本的に教育を見直すことが必要 (学校教育) <ul style="list-style-type: none"> ・中学校にヘルパー3級などの資格取得のカリキュラムを取り入れてもらいたい。これに、救急救命の初歩的なものを加え、必修で中学生が勉強する。これを、毎年積み重ねると、例えば、東南海地震の際などに、人命を助けることができるかもしれず、将来の「安全・安心」に繋がっていく ・10年後、中国はたいへん大きな商売相手となっている。小さいうちから、中国語か英語をしっかりと教え、有能な人材を育成すれば、あっと驚く10年後になる可能性がある ・語学のスーパーモデル校をつくり、国際的に活躍する人材を育成(県外からも生徒を呼び込む) ・田舎からも中高一貫校に安心して通えるよう学生寮を整備 	総計審(8.3) 未来創造部会(7.1) 未来創造部会(7.1) 総計審(8.3) 総計審(8.3)
福祉	(高齢者福祉) <ul style="list-style-type: none"> ・徳島県の医療・介護・福祉施設の状況は、施設数も多く、全国的に見ても進んでいる。これまで施設が多いことに関し、どちらかというと、「保険料が上がる」などのマイナスイメージで捉えていたと思うが、この状況を逆手に取り、気候温暖で施設・人材ともに充実している徳島に、国内外から高齢者を呼び込めば良い 	未来創造部会(7.1)

	・地域格差のない、誰でも介護施設が利用しやすい仕組みづくり	総計審(8.3)
子育て・少子化対策	(子育て・少子化対策) ・行政や地域の人たちが子育てのサポートをしてくれる社会が実現すると、安心して子どもが産める。県外から若い人たちを呼び込む際にも、周りのサポートがなければ不安であり、この部分のサポートがあれば、人口が増え、明るい未来に繋がる	未来創造部会(7.1)
環境	(環境問題) ・将来の徳島県を「限界集落」ならぬ「限界県」にしないためには、「住み続けたい町」あるいは他から見て「住んでみたい町」にしなければならない。そのためには、色々な意味での「安全・安心」が重要である。その1つが「地産地消」で、徳島県は生産県のイメージがあるが、自給率は44%である。また、エネルギーの地産地消ということも、今後は考えられる。できる限り、県内で色々な意味での「地産地消」を進めていく知恵が必要で、そういった中で雇用も創出される ・漂着ゴミ対策(上・中流域の住民に対し、河川にゴミを捨てないように意識改革を徹底)	未来創造部会(7.1) 総計審(8.3)
	(循環型社会・リサイクル) ・デポジット制度の推進	総計審(8.3)
	(自然環境・景観) ・川を活かしたまちづくり(護岸整備、川に向けた店舗、水上バス)	総計審(8.3)
観光	(観光一般) ・地元の間人は、地元のことを知っているようで知らないのではないか。そこに住む人が、もう一度自分の足を使って町の魅力を探し出し、データとして目にできるような形にし、それを地域資源として、見直し、PRすることにより、観光資源にまで高めていけば良い ・徳島の人気観光スポット、人気の土産など、徳島に関する様々なランキングを、観光案内所や空港など、人が集まる場所に掲示するほか、徳島にちなんだクイズを観光スポット等に設置し、全問正解者には特産物を贈呈してはどうか。県民にとっては、徳島の魅力を再発見する契機となり、県外の方にとっては、いっそう徳島に関心を持ってもらう契機となる	未来創造部会(7.1) 未来創造部会(7.1)
文化・芸術・スポーツ	(文化・芸術) ・「祭り」は地域の元気の指標であるが、その「祭り」が人口の減少や財政難等の影響で休止や中止を余儀なくされている。地域の伝統を守るとともに、地域の活性化に繋げるため、「祭り」の継続や復活のための支援が必要	未来創造部会(7.1)
地域づくり・基盤整備	(地域づくり) ・「U・I・Jターン」の促進に関しては、徳島に来てもらうためのアピールの手法が大事になってくる。徳島をもう一度見直すことで、その魅力を発見し、それをどのようなメディアを使って、どのタイミングで伝えていくのか検討しなければならない	未来創造部会(7.1)
	・都市から帰ってきた人が住めるような町づくりが必要で、田舎だからこその「コンパクトシティ」、特に高齢者や子どもが住みやすいバリアフリーの小さな町を造り上げて欲しい	未来創造部会(7.1)
	・高齢者ばかりに重点を置くのではなく、若者にも魅力ある町づくりの推進	未来創造部会(7.1)
	・町づくりに関して、NPOや民間が、積極的に主体となって動けるような環境づくりを進めることが必要ではないか。行政とNPO・民間が互いに緊密に連携し、「徳島を一緒に変えていく」というような、アプローチができれば良いのではないか	未来創造部会(7.1)

	<ul style="list-style-type: none"> ・田舎に家族で移り住みたいという都会の若い家族を呼び込むことにより、田舎の活気を取り戻し、徳島県全体の活性化に繋げてはどうか。そのために、県営住宅を田舎に建設するほか、田舎の空き家のリフォームに対して支援を行う。また、県営住宅や空き家のリフォームの際は、県内産の木材を使用し、需要に繋げる ・徳島県内でも「U・I・Jターン」の方が増えて、実績が上がっている地域もある。そういった地域を先進的なモデルとして、計画に取り入れていくのも1つの案 ・県のHPに県内の空家情報をまとめて掲載し、定住に繋げる 	未来創造部会(7.1)
	<p>(基盤整備)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在、徳島市は経済センター、徳島テクノスクールの沖洲移転、東環状道路、新たな耐震岸壁の整備など、東に向かって発展し、基盤整備が進んでいる。この地区を本県発展の基盤として焦点あてその方向性を描く必要がある 	未来創造部会(7.1)
	<p>(ICT)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT化の一層の推進による県民の利便性、安全・安心等の向上 	総計審(8.3)
	<p>(公共交通機関)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者がマイカーに頼らず、徒歩や公共交通機関でどこにでも移動できる町づくりが重要で、公共交通機関の充実と自転車道の整備は、今後欠かせない ・複線化による県南への特急列車の運行 	総計審(8.3)
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・経済的な売上げ増や右肩上がりのイメージから脱却し、経済的な満足とは別の、幸福感を高めるような施策が必要 ・今後の日本を考えると右肩上がりの成長を持続することは難しく、物質的な豊かさを現在のまま求め続けると、食糧事情はもちろん、地球の環境が持たないことは自明の理である。個人の生活レベルを考えた場合にも、右肩上がりの成長が見込めない中で、いかに豊かに生きるか、精神的な豊かさをいかに向上させるかが問われており、そのような中で、「より豊かな生活を実感できる徳島」を目指すべき ・県民の皆様からの意見を見ても、徳島県の強みと弱みが交錯している。強みの部分は、現在の方法でどんどん伸ばしていくことができると思うが、弱みの部分は、新しい視点を取り入れて、取組方法を変えていく勇気と決断が必要 	未来創造部会(7.1)
		未来創造部会(7.1)
		未来創造部会(7.1)